

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら坂東教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 13日		～	令和7年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数)	30名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 13日		～	令和7年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い職員配置と個別ニーズに寄り添った支援	保育士、言語聴覚士、児童指導員を配置し、専門知識に基づいた質の高い療育を提供しています。また、丁寧なアセスメントを通じて個々の発達段階や課題を把握し、保護者の意向を汲み取った「個別支援計画」の作成、実施を徹底しています。	外部研修への積極的な参加や事例検討会を定例化し、職員一人ひとりの専門性をさらに高めるとともに、最新の療育技術や知識を日々の活動に反映させていきます。
2	子どもの特性に配慮した環境づくりと徹底した衛生管理	活動スペースを広く確保するため、不要な家具を置かない工夫や、文字・イラストを併用した視覚支援(構造化)を行い、子どもが安心して過ごせる環境を整えています。また、夜間のオゾン消毒を含む清掃の徹底により、清潔な環境を維持しています。	柱などの死角になりやすい場所の安全対策を再点検するとともに、子どもの興味関心に合わせて玩具や教材を定期的に更新し、より意欲的に活動に取り組める環境を構築します。
3	多角的な活動プログラムの提供と密な情報共有	支援の5領域を網羅した月間プログラムを作成しています。活動の様子はLINEやSNS等で頻繁に発信し、事業所での子どもの姿を保護者と共有するよう努めています。	保護者からの要望が多い「過程で取り組める遊び」や「生活スキルの向上」につながる情報を積極的に提供し、事業所と家庭がより一体となった支援の継続を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流および外部評価の実施不足	教室内のスペースの確保や日々の業務に注力するあまり、地域住民を招いた行事や外部機関との積極的な交流まで手が回っていない現状があります。また、第三者による客観的な評価を受ける機会を設けておらず、運営の透明性向上に課題を感じています。	地域に開かれた事業を目指し、無理のない範囲で地域行事への参加やボランティアの受け入れを検討します。また、自己評価だけでなく第三者評価の受審を計画に盛り込み、多角的な視点から支援の質を検証する体制を整えます。
2	家族支援(交流会等)の機会提供の遅れ	個別相談や日々の連絡ツール(LINE等)での情報共有は密に行っているものの、保護者同士が悩みや情報を共有できる「交流会」や「勉強会」の開催頻度が低く、家族の孤立感やニーズを十分に解消しきれない面があります。	定期的なアンケートを通じて保護者のニーズを具体的に把握し、茶話会やテーマ別の勉強会を定期的に開催できるよう検討します。また、きょうだい児も参加できるイベントなどを企画し、家族全体を支える支援体制を強化します。
3	非常時対応マニュアルの周知と実践的訓練の不足	事業所内での避難訓練や職員向け研修は実施していますが、作成している各種マニュアルの内容が保護者に十分に浸透していないことが、アンケート結果から浮き彫りになりました。また、訓練のバリエーションもまだ改善の余地があります。	策定済みのマニュアルを改めて保護者に配布・説明し、緊急時の連絡体制を再確認します。訓練においては、実際の活動時間中に抜き打ちで行うなど、より実践的な内容を取り入れ、児童・職員双方が迷わず行動できる体制づくりを進めます。